

令和2年度実績報告分

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	特別養護老人ホーム福楽園		施設番号	K212
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和2年度)	改善計画 (令和2年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和3年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定があった場合の実施状況 (令和3年4月30日時点)
サービス担当者会議へ介護職員が参加できない点を施設全体の課題として検討する事が望まれるについて	毎月、ケアマネジャーが「モニタリング評価・記録表」を用いて、ケアプランの援助目標に対して実施状況や達成度を確認しているが、日々のさまざまな支援の担い手が介護職員であることを踏まえ、モニタリングを担当することが望まれる。また、月4回、サービス担当者会議が開催されているが、介護職員が参加出来ていない。ケアプラン作成の意義を再確認し、参加出来ない要因を洗い出し、施設全体の課題として検討することが望まれる。	介護職員のサービス担当者会議参加は人員的に難しいため、照会をかける仕組みを構築した。介護職員に限らず他職種についても会議不参加になってしまう事による利用者へのデメリットがないように令和3年4月より実施。	① 実施済み ② 実施予定(令和 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。
家族との連携をさらに円滑にするために手引書などを設けて標準化することが望まれるについて	現在、利用者の平均年齢は86.6歳、介護度4、5が全体の65%を占めている。また、入居期間についても平均4年弱と短く、年間約20名ほどの新入居者を迎えている。そのような状況を踏まえ、夜間緊急時は看護師、生活相談員のオンコール体制とし、利用者や夜勤職員をフォローしている。また、入院が必要な状況が発生した場合、看取り介護も選択できる事を説明したり、終末期を迎えた場合には担当者会議を開催して連携に努めている。重要な案件であることを踏まえ、標準化を図るための手引書などをさらに充実することが望まれる。	経営層の行う入所契約、入所時の各係からのオリエンテーションなどで利用者家族へ細かな説明を行なっている。また、協力医療機関(武蔵野台病院)からみえる医師が主治医であり、看取り介護の開始に関する診断についても主治医が担当し、説明を受けていただくことになっている。入所時の説明だけでなく、状態変化に応じ細かに意思確認を行っている。緊急時の対応に関する家族の意向が変わった場合も申し出いただくことで内容を更新していく事を伝えている。職員教育は指針に基づき、毎年、教育に当たる係を設定し研修を行っている。	① 実施済み ② 実施予定(令和 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。
職員の業務改善意識をさらに向上させることを課題としているについて	施設では法人理念や基本方針を理解し、実践していける職員を求め人材像として掲げ、各種の研修、会議体、定期面談などの振り返る機会を設けながら事業を推進している。昨年度の離職率についても11.6%と低いことから、成果が得られていることがうかがえる。さらに職員の処遇改善や働きやすい職場環境づくりに努め、人材の確保と定着のための体制整備を目指している。また、定着率に加え、職員の業務改善意識を向上させることを課題としており、具体的なプログラムを構築することなども合わせて検討されたい。	人の動きを変え、効率的に対応していく為、インターカムの導入を3月に行った。操作や効率的な使用の仕方に慣れるまでに時間ある程度要するが重複した動きの改善などができている。効率よく使える物やアイデアなども継続して職員から集めていく。業務改善の視点については、委員会活動(安全衛生委員会など)を通して担当職員がチカラを発揮する機会を設定していく。	① 実施済み ② 実施予定(令和 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「令和2年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。